

資料 1

高等専門学校の充実に関する調査研究協力者会議  
(第6回) H27. 12. 10



(文部科学省)  
「高等専門学校の充実に関する調査研究協力者会議」 (第6回)

## 高専生の採用と活躍

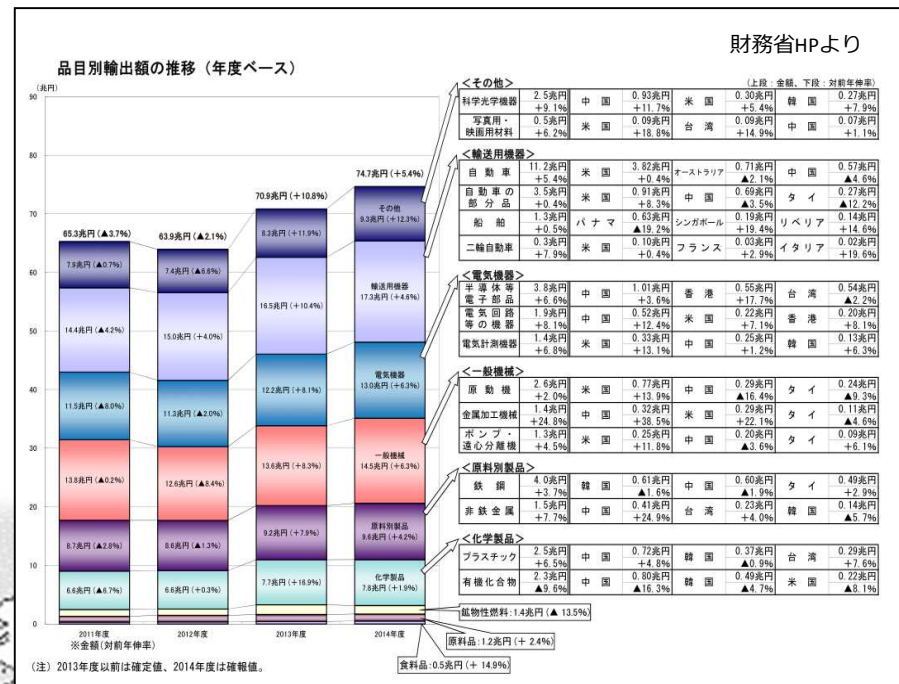
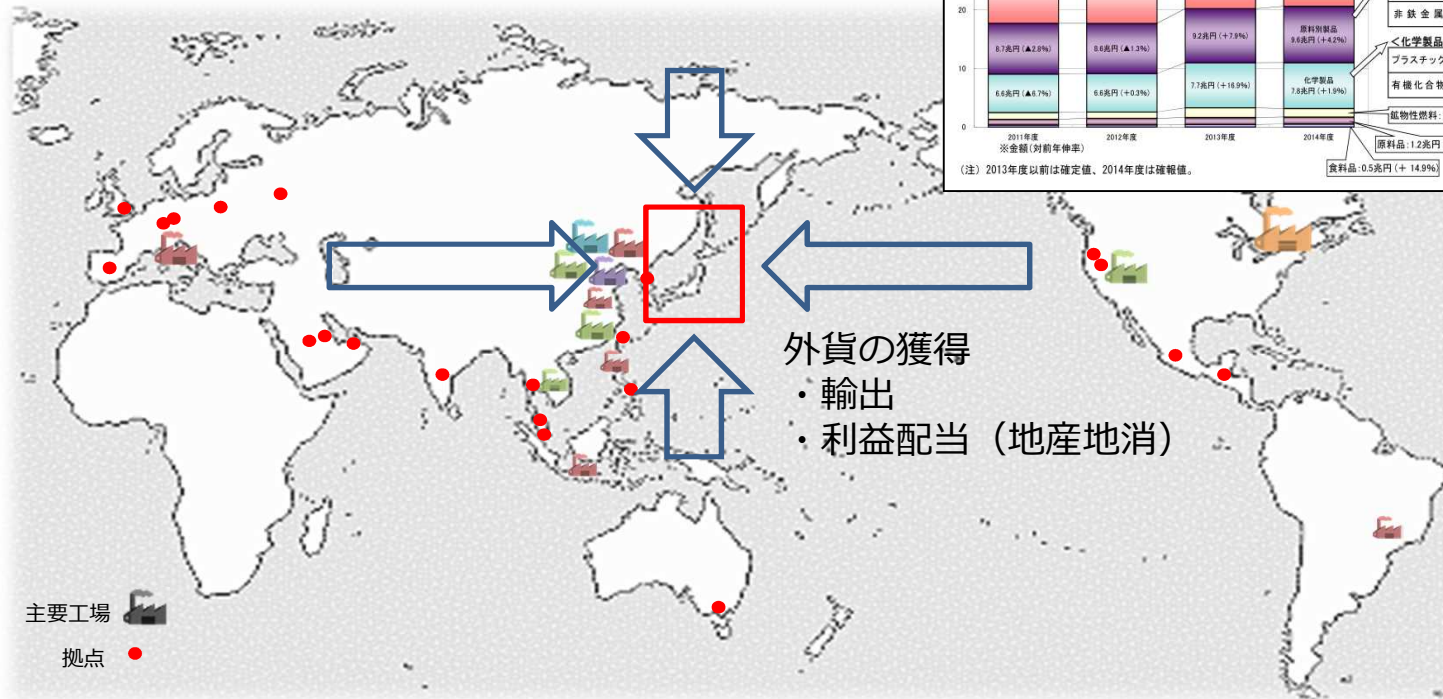
2015.12.11

株式会社荏原製作所 人材開発室 服部隆太

# - 外貨を稼ぐ製造業 -

エネルギー原料を海外からの輸入に頼る日本において、製造業等の外貨獲得企業は重要な存在であると自負しています。

本日その1社としてプレゼン致します。



- ・創 業 : 1912(大正元)年11月
- ・資本金 : 686億円
- ・売上高 : 4,826億円(海外売上比率 : 53.6%)
- ・経常利益 : 362億円
- ・従業員数 : 16,030名
- ・業 種 : 製造業、プラントエンジニアリング業



創業者 畠山一清

# - 荏原製作所 事業紹介 -



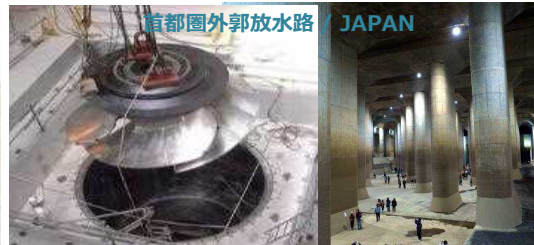
ポンプ事業  
ブランド：EBARA  
売上高：1805億円



コンプレッサ・タービン事業  
ブランド：Elliott  
売上高：1068億円



冷熱事業  
ブランド：EBARA  
売上高：348億円

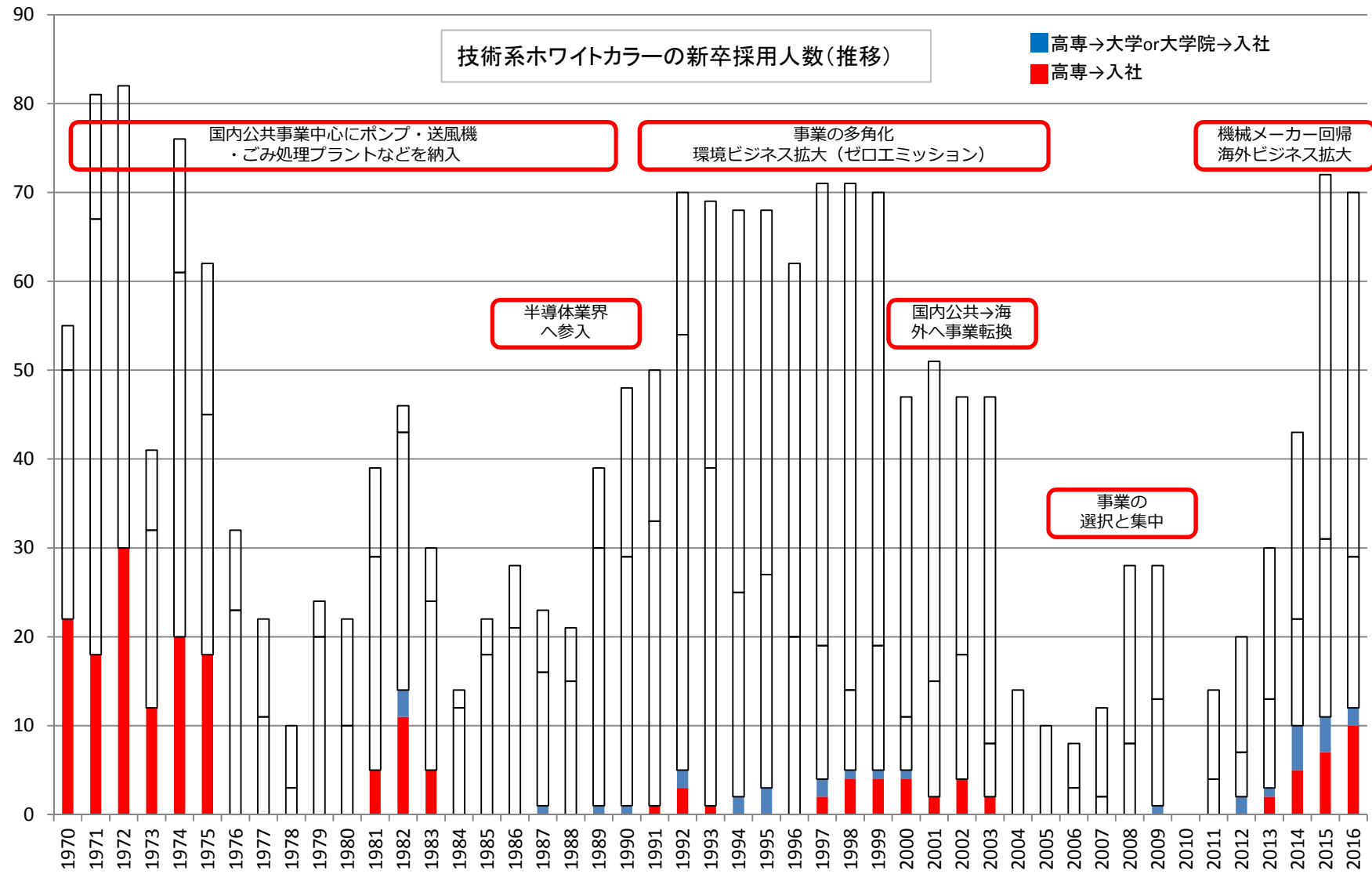


エンジニアリング事業  
ブランド：EBARA  
売上高：649億円



精密電子事業  
ブランド：EBARA  
売上高：739億円

# - 新卒エンジニアの採用人数（1970～2016） -



## - グローバル競争の過去・現在とこれから -



### <過去の市場>

- ・ すり合わせ技術（暗黙知）
- ・ 日本製は品質が良く壊れにくい（Made in Japan）
- ・ 加工貿易（輸出）
- ・ ボトムアップ型経営

日本企業が優勢

### <現在の市場>

- ・ 組み合わせ技術（形式知）
- ・ コスト再重視、かつ品質と納期も一定水準以上を達成
- ・ 地産地消
- ・ トップダウン型経営

海外企業が優勢



### <将来の市場（予想例）>

もの自体の価値の低下。サービスビジネスへの転換。  
市場（客先）における自社の「強みの見極め」が必要。

そのために荏原製作所が必要としているのは「広い視野と行動力」を持ったエンジニアです。  
自身の専門領域以外の技術への「広い視野」に加え、過去の探求などから将来を予想する「時間的な広い視野」、海外など「地理的な広い視野」を持つことがこれからのエンジニアには必要です。  
また課題が生じた際、机の上で考え込むのではなく、まず行動を起こしその場で臨機応変に考えていく行動力も必要です。



荏原製作所はグローバル競争で勝つために「広い視野と行動力」を持ったエンジニアを求めています。高専生の積極採用理由は以下の通りです。

### <教育体系が良い>

- ・ 企業から転身した教員が多く、広い視野で社会との接点を得られる
- ・ 工作機械や実験設備が充実しており「ものづくり」の経験を積める
- ・ 他の学科の先生や生徒との接点があり複合的専門知識を習得しやすい

### <入社後の成長が期待できる>

- ・ 工学の基礎を徹底的に学んでいる上に、自身の専門分野に対する過度なこだわりが無く、複合的な技術に興味をもてる
- ・ 素早く行動し自ら手を動かせる現場力が養われている
- ・ 中学生の頃から「ものづくりが好き」。また実際にものを造った経験を通じて「ものづくりは面白い」という感覚を持っている。このことから「ものづくり」の仕事において、自発的に考え学び・行動することができる。

約40年間仕事を続けていく中で、エンジニアの活躍領域が広がってきております。一生同じ製品の技術者として道を極めていく事はほとんど無くなり、様々な経験からエンジニアとしての視野を広げ、視点を高めるとともに、マネージャーや海外拠点責任者、経営者などへの登用も行われます。

高専生が入社した後、それぞれの道が切り開かれ、それぞれの領域で活躍しております。今回は高専より入社し、経営者に登用された者の略歴を紹介いたします。

### <高専卒経営者の略歴紹介>

- ・ 1975年 福島工業高専卒 荏原製作所入社
- ・ ①技術管理部門 → ②ポンプ設計部門 → ③CAD/CAMセンター → ④情報通信部門 → ⑤工場生産管理部門 → ⑥IT戦略推進部門 → ⑦事業企画部門 → ⑧ポンプ子会社（中国）総経理（執行役員登用） → ⑨富津工場（日本）工場長（現在）

※さまざまな部門で難局を乗り越え「広い視野と行動力」を培い、現在経営者として当社成長戦略の中心人物として活躍中。



以下は当社に入社した高専生とのやり取りから感じたことを記述しております。

### <エンジニアとしての高い視野・広い視点に関する劣等感>

- ・大学院卒の同期社員と自身を比較して「視野が狭く、視点が低い」と感じている（実際はそんなことは無い）。
- ・（実力はあるのに）自信が無い。根拠のない劣等感。

### <なぜか生産部門配属を希望する>

- ・会社としては高専卒だからといって必ず生産部門配属とは考えていない。しかし、ほとんどの高専生が生産部門配属を希望する。開発や設計といった職種へも興味を持って欲しい。
- ・高専卒＝生産部門でのみ強みを発揮できる、という固定観念があるのかもしれない。エンジニアとしてのトータルなポテンシャルに気付いて欲しい。

外貨を稼ぐ日本メーカーが、激変する市場環境の中、グローバル競争に勝っていくためには、どのようなエンジニアが必要かを探求することが重要だと考えます。

当社は「広い視野と行動力」を持ったエンジニアこそが、これからの日本ものづくりを支えるエンジニアであると考え、意図的に高専生の採用に力を入れております。

高専の教育プログラムのさらなる充実、優秀人材の輩出を心より願っております。

ご清聴ありがとうございました。